

今月の題字  
佐々木亜希子さん

(東京都新宿区)

『カツベンっておもしろい』という本の著者の美人活弁士。4年前、ながめ余興場でのチャップリン映画の佐々木さんのカツベンは最高でした。是非もう一度！

虹の架橋「検索」で、インターネットからでもご覧いただけます。



パルでみどりジュニア音楽祭  
二月二日十二時開演  
今年も笠懸野文化ホール・パルで「みどりジュニア音楽祭」が開催されます。この音楽祭は、MIDORIジュニアアカデミー事業の一環として、フルート奏者の第一人者の荒川洋さんに市内の中学校の吹奏楽部の指導とジュニア音楽祭の監修もお願いしています。



今回は市内幼稚園、保育園、小中高等学校、渡良瀬特別支援学校が参加。入場は無料・要入場券(入場券は、笠懸野文化ホール、公民館、図書館、社会教育課で配布)



東京パリアンサンブルコンサート  
今回の音楽祭では、フルートの荒川洋さん、チェロの植木昭雄さん、ピアノの佐藤勝重さんのほか、劇団四季ミュージカル「オペラ座の怪人」の怪人役を務めた大山大輔さんが出演してミニコンサートを開催、超一流の音楽を生で楽しむことができます。  
荒川洋さんが、みどり市の印象や風景をイメージして作詞作曲した「想いは空をこえて」という曲はユーチューブでも聴くことができます。下記のQRコードからアクセスして聴いてみてください。



小耳にはさんだ  
いい話  
(文責・靖) 《294》

今から二十五年前に「虹の足」という詩を読み、同じ頃に『虹の架橋』を創刊しました。

「虹の足」 吉野 弘  
雨があがって 雲間から 乾麺みたいに真直な 陽射しが たくさん地上に刺さり 行手に榛名山が見えたころ 山路を登るバスの中で見たのだ、虹の足を。

眼下にひろがる田圃の上に 虹がそっと足を下ろしたのを！

虹の足

その虹の足の底に 小さな村といくつかの家が すっぼり抱かれて染められていたのだ。 それなのに 家から飛び出して虹の足にさわろうとする人影は見えない。

「おーい、君の家が虹の中にあるぞよ 乗客たちは頬を火照らせ 野面に立った虹の足に見とれた 多分、あれはバスの中の僕らには見えて村の人々には見えないのだ。 そんなこともあるのだろう」

世界一小さな 足利屋 トイレ美術館

今月の作品《294》  
生方友子さん『小石アート』



大間々町桐原で絵手紙サークルを続けている生方友子さんのグループが「小石アート」を作って楽しんでいきます。渡良瀬川の河原で拾ってきた面白い形の小石にアクリル絵の具で色を塗ると見事な小石アートが完成します。  
お正月には縁起物の、おふくさんや七福神、奴だこや羽子板の羽根を描いた小石アートを作成しました。足利屋の休憩コーナーでは、可愛いお地藏さまやカラフルな魚などの小石アートも展示しています。小石アートに興味のある方は生方さんにお問合せ下さい。090-4596-7159

他人には見えて、自分には見えない幸福の中で 格別驚きもせず 幸福に生きていることがー

この詩と出会って以来、「自分には見えない幸福の中で、格別驚きもせず、幸福に生きている」ことをあまりがたく思うようになり、「虹の架橋」発刊のきっかけのひとつになりました。今年みどり市では五七四人の新成人が誕生しました。成人式の「中学時代の恩師からのメッセージ」の中で、新成人に向けて「虹の足」の詩を朗読した先生がいて嬉しくなりました。

詩人の吉野弘さんが 婿の結婚式の時に贈った『祝婚歌』という詩の中に



「正しいことを言うときは少しひかえめにするほうがいい。正しいことを言うときは相手を傷つけやすいものだと気づいているほうがいい」という一節がありました。言葉は人に大切なことを気づかせてくれることも、傷つけることもありませぬ。虹の架橋は今年八月には三百号を迎えます。続けられる幸福を感じています。

靖ちゃん日記

令和二年一月十八日(土)  
足利屋でもキャッシュレス消費者還元事業の効果で、クレジットカードやペイペイ(セゾン)やオリガミペイなどのスマホ決済も使いたいというお客さんが増えました。自分でもコンビニの買物でペイペイやオリガミペイなども使おうとスマホ決済の便利さかわかっています。今日も「慣れてないので教えて」とお客さんに頼まれて、いっしょに操作をした。使い方がわからないお客さんの立場で勉強するのも店の大事な役割だと思ったり。スマホ決済は、どこでいくら買ったかという買物の履歴も残り、6月までは5%のポイントが還元されるのもお客さんにとって是有難い。でも、知っているつもりで思わぬ失敗をすることもある。コンビニのレジで、ペイペイのことを、「パイパイでお願います」と言った女性かいたという。パイパイは、キャッシュレスじゃなく、パイパイは「トップレス」だろー。笑



初笑い粋なセリフのチャップリン 人気活弁士・佐々木亜希子さんの「カツベン」っておもしろい」という本を読み、映画「カツベン」を観て、にわか無声映画ファンになりました。活動弁士のセリフを聞いてみるとチャップリンと落語の熊さん、八つっあんが重なります。百年前、ながめ余興場ができる前の大間々駅周辺には、新声座、共楽館、大間々座、電気館といった芝居小屋や映画館があり、活動写真や浪曲、芝居などで賑わっていたそうです。私たちには活弁士や浪曲師の語りにも感動し、共鳴する人情味豊かなDNAが受け継がれているのかもしれない。

第二百九十五号は三月一日(日)発行予定です。

♡ やつちゃんの似顔絵提供…ひさかさん